



見逃さない！小さな変化が命を守る ～医療関連感染サーベイランスって何？～

サーベイランスとは

「見張り」や「見守り」のこと
患者さんやスタッフの体調、感染の広がりなどの「**小さな変化**」を
データで見えるようにして早めに気づくための仕組み
→難しそうだけど、みなさんも日常的にやっている

実はあなたももうやっている！

「ん？何か変だな、いつもと違う…言葉にできないけど」
「昨日も同じ訴えの患者さんいたな」
それがサーベイランスの始まり！

特別なこと
じゃないんだ
…



患者さんを守るのは
チームの力×ひとりの気づき



どんなことをする？

1.情報を集める！
→中心静脈カテーテルや膀胱留置カテーテルの挿入数、感染症発生数を
チェック！
→細菌検査の結果や薬剤耐性もチェック！
→発熱した人、水様便が続く人、創部の発赤・膿性排液が出た人など、
感染兆候や医師へ報告した記録をチェック！

2.パターンを見る！

→同じ病棟で水様便の人が数名続いた？
→特定の菌が何人も出てる？
→急に増えてる？
→そういう「同じ」を見つけることが大事！

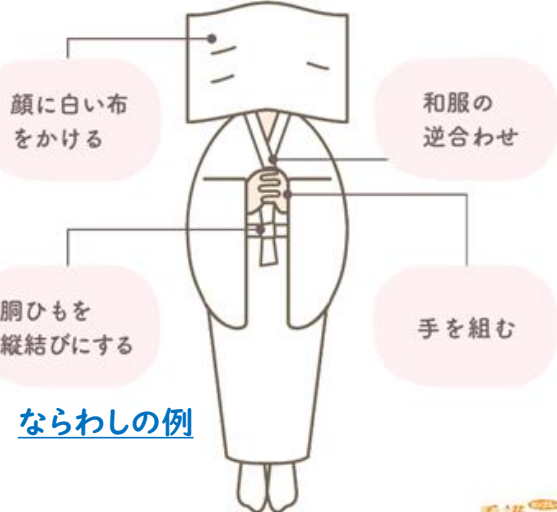
3.広がる前に動く！

→「変だな？」と思ったら、感染対策予防部会や感染管理認定看護師に相談！
→伝播ないようにゾーニング・手指衛生の強化！

文責
感染管理認定看護師
大田黒裕介

エンゼルケア時にならわし(死者らしい外見にする整え)は基本的にしなくていいです

十数年前から、ならわしは基本的に行わなくてよいといわれるようになりました。その背景をご存じでしょうか。
昔は埋葬するまでご遺体を身近に置いていたこともあり、ご遺体の鼻や口から悪い存在が入り、荒ぶれて動き出し
たりしないかと**おそれの感覚**が生じていたようです。そのために、動かないように縛ったり、鼻や口の穴を塞いだりし
て封印をするようになったのではないかと考えられています。また、ならわしは生きている人と区別するための印づけ
としての必要性があったのだらうと考えられています。エンゼルケアは、患者さんの尊厳の保持とご遺体の保護、ご
家族が心豊かに看取りの場面を過ごしていただくことが目的のケアです。その段階において「ご遺体へのおそれの
感覚が由来したならわし」は必要ない、周囲に亡くなった人であることを表明するための「印づけ」も必要ない、とい
う考えに転換されました。しかし、ご家族が慣習的なならわしを希望される場合は、リスクを説明のうえ、柔軟な対応
をすることが望ましいです。



ならわしの例

○手首を組まない

皮膚を圧迫することで、変形や変色する可能性があります。
自然な形で体の横に置きます。

○顎を固定しない

紐やバンドで皮膚を圧迫することで、変形や変色する可能性
があります。枕を高くして顎の下と胸の間に丸めたバスタオル
を置くと閉まりやすくなります。

○旅立ちの服はなんでもOK

家族の意向を確認し、生前のその人らしい服装を確認します。
患者さんの人生を改めて知ることがあります。

○綿詰めはしない

綿は漏液をせき止める役割は果たしません。当院では咽頭、
直腸に体液を吸収し、漏液を防止する(高分子ポリマー)を
使用しています。(再検討予定です)

文責:緩和ケアCN 宮野由美